パブリック・サービス研究分科会　図書館評価グループ研究活動報告

研究年月日：6月１1日（月）
場　　所：女子栄養大学　坂戸キャンパス
出　席　者：二塚（国立音楽大学)、田辺（国士舘大学)、藤原（駒澤大学）
清水（相模女子大学)、東家（上智大学)、吉野（女子栄養大学)、
成田（大東文化大学）小松（東京家政学院大学)、今井（文化女子大学)、
辻本（立教大学)、千家（國學院大學）
欠　席　者：阿部（清泉女子大学)、椎名（明治学院大学）
記　　録：千家（國學院大學）
討議内容：

- 教　育　支　援　（今井・吉野・田辺）

① 前グループ研究において検討した､学生の授業に直接関係する教育支援業務を評価する方法について検討を行った｡「私立大学図書館自己点検･評価手法ガイドライン」及び「パフォーマンス指標」などを参照し、評価手法を「チェックリスト」「データによる指数算出」「アンケート」という 3 つの手法に分け、評価項目を挙げた。

② 電子情報サービスグループより提案のあった 3 項目に対し、検討を行った。結果、「誰のための図書館か→利用者」、「利用者は誰か→大学教職員（研究者)、学生」の 2 項目については同意。「その利用者のための図書館の評価の基準となるのは？→現場で働く図書館員の感性（意見）+文科省の基準+α」の項目に対しては､「誰のための図書館か→利用者」であれば､評価の基準も最終的には「利用者」ということになるのではとの意見もあった。
結果、評価の基準については、今回の評価作成の目標と捉え、図書館員の感性+文科省の基準を基準とした評価を作成するのか、利用者の評価を基準とした評価を作成するのか、他グループとのバランスを取りながら、最終目標を決めることで意見が一致した。

③ 前グループ研究では挙げられなかった機関リポジトリについて､教育支援グループの中で、取り上げる必要があるかどうか検討するため、機関リポジトリに関して知識を得るために、次回までに文献を探し、読んでおくこととなった。

- 電子情報サービス　（小松・二塚）　　※今回は 2 グループ合同討議
レ ファ レ ン ス　（東家・辻本・千家）

①「電子情報サービス」グループより出されていた質問事項（「何のために図書館評価をするのか」､「誰に向けて発信するのか」等）について、確認。
（確認内容はグループ全体の共通認識となるよう､翌日以降メールにて送信すること。）

②「電子情報サービス」グループより、レファレンスに触れる部分（利用者が電子情報を入手するための支援態勢）の評価については､「レファレンス」グループ

に担当して欲しいとの要望あり。「レファレンス」グループはできる範囲での評価を了承。

- 館内利用・貸出　（清水・藤原・成田）

5 月例会で、成田→貸出（サービス面）、清水→複写（サービス・施設面）、藤原→施設（ハード面）とチェックリスト作成担当者を決めたが、各自事前にメールのやりとりで統合したリストを確認した。
目標としては、各図書館員が自館を見直しやすいチェックリスト作成であるがまだまだ、追加項目、見直しする箇所がありそうだということで、それぞれ作成したリストを使って実際に自館を見直しすることにした。